

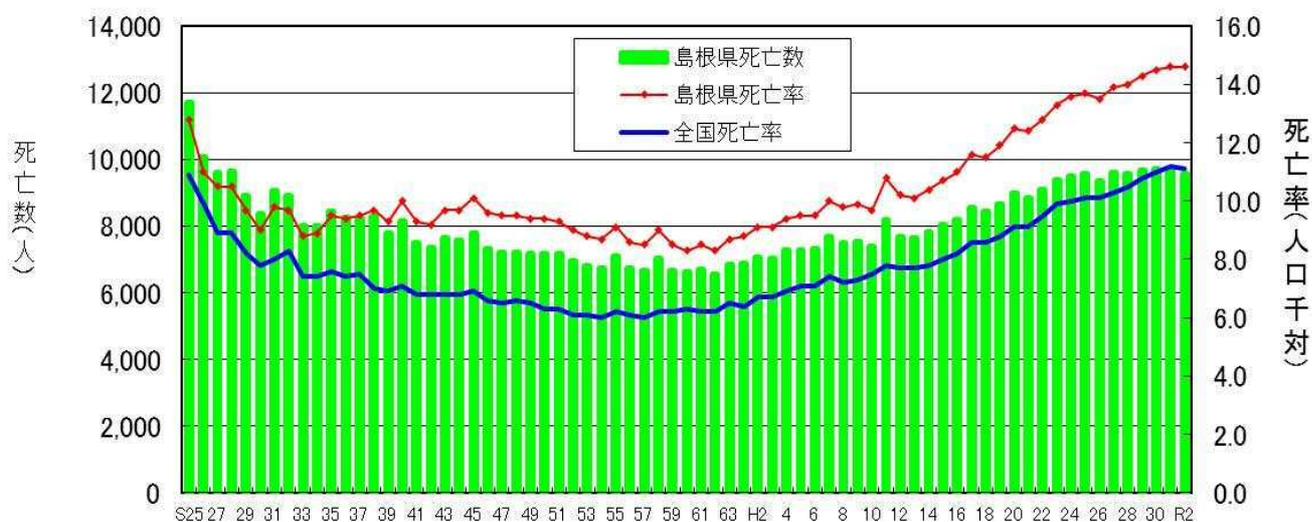
3 死亡

(1) 死亡数・死亡率

令和2年の死亡数は9,585人で、前年の9,710人より125人減少し、死亡率（人口千対）は14.6で、前年の14.6と同じであった。

死亡率の年次推移をみると、戦後急速に低下したが昭和30年代半ばから低下傾向が緩やかになり、昭和63年からは人口の高齢化に伴って再び上昇し始め、その後も上昇傾向を続けている（図4）。

図4 死亡数・死亡率の年次推移



年齢階級別に死亡率（人口10万対）をみると、0～4歳、15～19歳、25～29歳、30～34歳、50～54歳、65～69歳、75～79歳の各階級が前年より増加し、5～9歳、10～14歳、20～24歳、35～39歳、40歳代、55～59歳、60～64歳、70～74歳、80歳以上の各階級が前年より減少した。特に80歳代の減少が大きい。

死亡率性比（男性の死亡率／女性の死亡率×100）を年齢階級別にみると、15歳以上の各階級において100以上となっており、男性の死亡率が高いことを示している（表4）。

表4 年齢（5歳階級）別死亡数・死亡率（人口10万対）・死亡率性比

年齢階級	死亡数			死亡率			死亡率性比
	令和2年	令和元年	対前年増減	令和2年	令和元年	対前年増減	
総数	9,585	9,710	△ 125	1,447.6	1,460.2	△ 12.6	97.9
0～4	15	11	4	61.8	42.3	19.5	82.1
5～9	1	2	△ 1	3.6	7.1	△ 3.5	-
10～14	2	3	△ 1	6.9	10.3	△ 3.4	-
15～19	6	5	1	19.8	16.1	3.7	177.5
20～24	11	11	0	44.3	45.8	△ 1.5	235.8
25～29	12	10	2	46.4	41.7	4.7	275.7
30～34	17	9	8	57.3	30.0	27.3	307.1
35～39	24	25	△ 1	69.4	71.4	△ 2.0	284.2
40～44	29	42	△ 13	72.2	102.4	△ 30.2	113.7
45～49	75	73	2	168.3	169.8	△ 1.5	157.6
50～54	88	73	15	230.5	192.1	38.4	162.5
55～59	129	138	△ 9	326.7	345.0	△ 18.3	178.2
60～64	213	257	△ 44	485.3	571.1	△ 85.8	334.4
65～69	444	458	△ 14	881.4	848.1	33.3	265.6
70～74	709	683	26	1,273.9	1,313.5	△ 39.6	269.1
75～79	878	846	32	2,240.1	2,115.0	125.1	233.7
80～	6,932	7,064	△ 132	8,255.0	8,310.6	△ 55.6	130.0

注1) 死亡率性比=男性の死亡率/女性の死亡率×100

2) 年齢（5歳階級）別死亡率の算出に用いた人口は、令和2年は令和2年国勢調査に関する不詳補完結果(参考表)

(2) 死因

①死因順位

令和2年の死亡数を死因順位別に見ると、第1位は悪性新生物で2,413人（人口10万対死亡率366.7）、第2位は心疾患で1,400人（212.8）、第3位は老衰で1,124人（170.8）となっている（表5）。なお、全国の死因は、第1位が悪性新生物、第2位が心疾患、第3位が老衰となっている。

主な死因の年次推移を見ると、悪性新生物による死亡率は上昇を続け、昭和59年以降、死亡原因の第1位となった。心疾患の死亡率は、平成12年に死亡原因第2位となって以降上昇傾向にある。老衰の死亡率は、ほぼ横ばいに推移していたが、平成19年以降上昇し続けている。脳血管疾患の死亡率は、平成12年以降概ね横ばいで推移している。（図5）。

また、死因別の死亡率を都道府県別に比較した場合、本県は血管性及び詳細不明の認知症（全国第2位）、老衰（第2位）、アルツハイマー病（第3位）の死亡率が高い水準を示している。

図5 主要死因の死亡率の年次推移

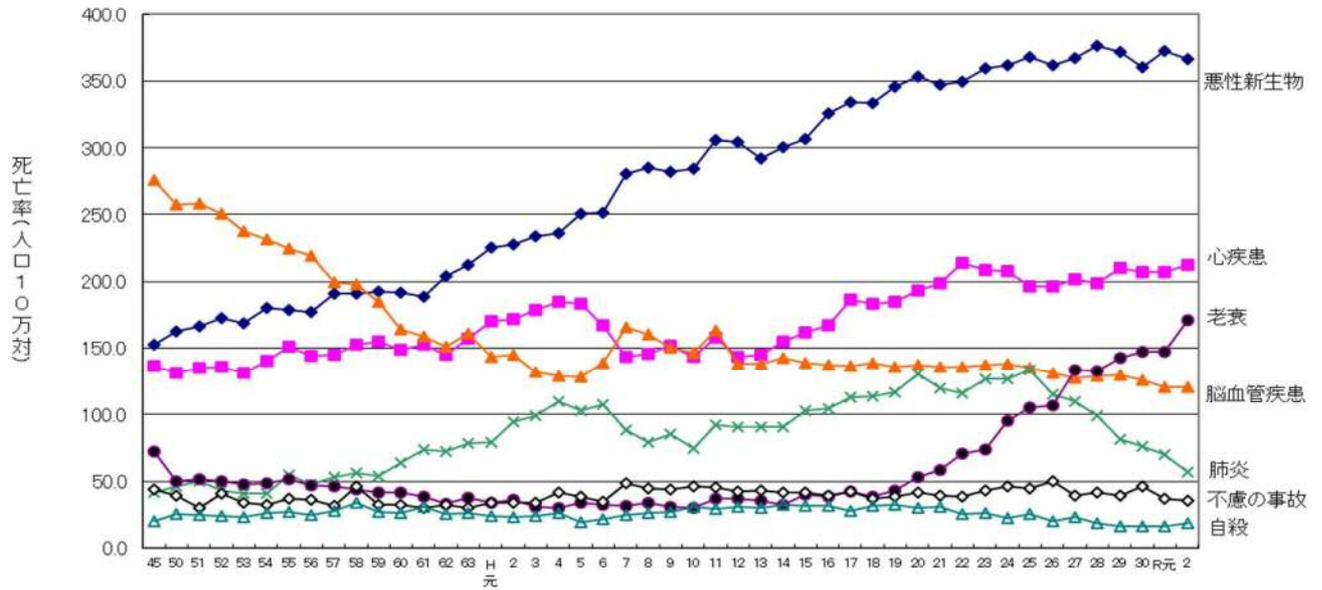


表5 死亡数・死亡率（人口10万対）・死因順位；性別

死 因	令和2年									令和元年		
	総数			男性			女性			総数		
	順位	死亡数	死亡率	順位	死亡数	死亡率	順位	死亡数	死亡率	順位	死亡数	死亡率
悪性新生物<腫瘍>	1	2,413	366.7	1	1,376	432.7	1	1,037	305.0	1	2,481	373.1
心疾患(高血圧性を除く)	2	1,400	212.8	2	647	203.5	3	753	221.5	2	1,376	206.9
老 衰	3	1,124	170.8	4	264	83.0	2	860	252.9	3	982	147.7
脳血管疾患	4	795	120.8	3	314	98.7	4	481	141.5	4	803	120.8
肺 炎	5	373	56.7	5	204	64.2	6	169	49.7	5	463	69.6
誤嚥性肺炎	6	332	50.5	6	180	56.6	7	152	44.7	6	390	58.6
アルツハイマー病	7	249	37.8	13	74	23.3	5	175	51.5	7	290	43.6
不慮の事故	8	234	35.6	7	134	42.1	9	100	29.4	8	240	36.1
血管性及び詳細不明の認知症	9	217	33.0	12	76	23.9	8	141	41.5	9	210	31.6
腎 不 全	10	183	27.8	9	89	28.0	10	94	27.6	10	198	29.8

注1) 令和元年は確定数

2) 男性の8位は「自殺」で死亡数94、死亡率29.6。10位は「間質性肺疾患」で死亡数88、死亡率27.7である。

②年齢別死因

令和2年の死因を性・年齢（5歳階級）別構成割合から見ると、自殺の占める割合は女性が15～19歳、20歳代、35～39歳、男性においては15～19歳、20歳代、30歳代、40～44歳が高くなっている。また死因順位第1位の悪性新生物の占める割合は、男性は概ね45～49歳から増加し、70～74歳がピークとなっている。女性は65～69歳が最も高く、概ね40～44歳、50代から60代では5割以上を占めている（図6）。

図6-1 性・年齢（5歳階級）別に見た主な死因の構成割合（男性）

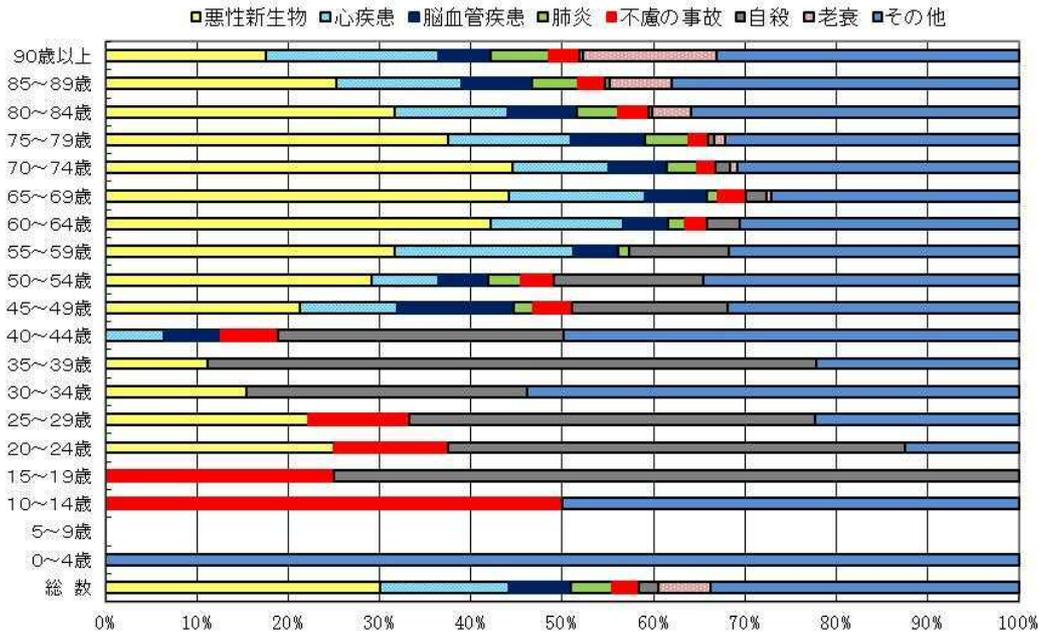
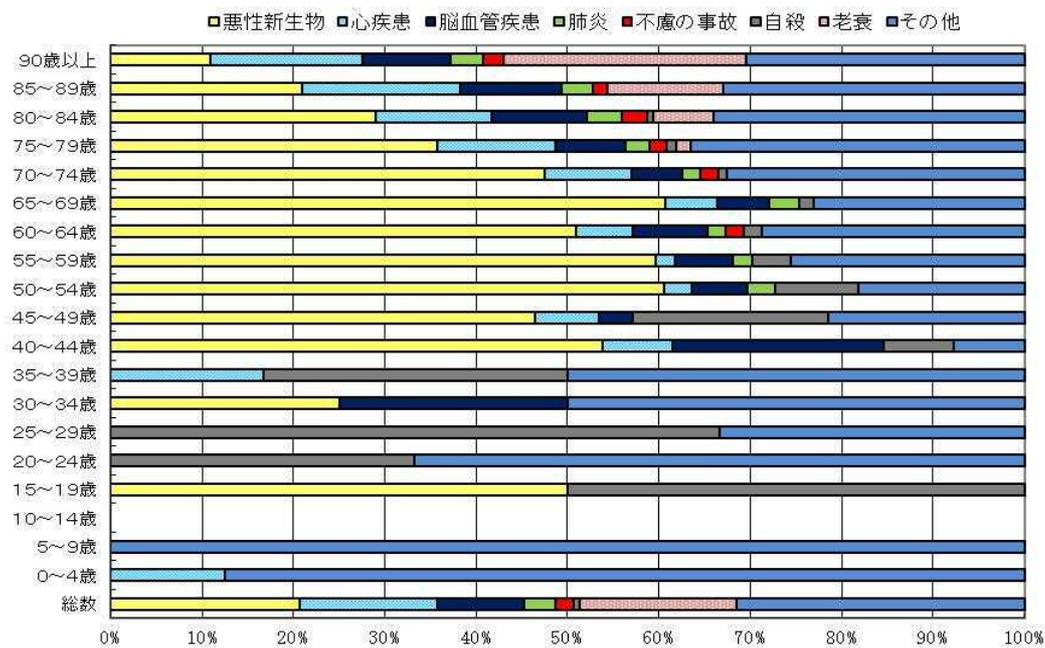


図6-2 性・年齢（5歳階級）別に見た主な死因の構成割合（女性）



③部位別に見た悪性新生物

悪性新生物について死亡数、死亡率（人口10万対）を主な部位別に見ると、男性では肝が上昇し、令和2年の死亡数は133人、死亡率は41.8となっている。女性では肺、肝が上昇し、令和2年の死亡数は順に134人、74人で、死亡率は39.4、21.8となっている。（表6、図7）。

表6 悪性新生物の主な部位別死亡数・死亡率（人口10万対）の年次推移

死亡数																			
性別	部位	S30	40	50	60	H8	12	17	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R元	2
男性	胃	250	314	293	273	263	267	230	227	242	230	218	237	216	208	207	197	176	164
	肺	19	61	82	169	250	299	363	301	352	305	347	336	363	319	305	328	361	308
	肝	54	55	65	121	206	208	191	173	155	159	143	159	137	141	122	115	129	133
	膵	8	23	26	54	84	92	89	113	100	101	114	119	119	137	118	107	112	104
	大腸*	23	42	48	79	151	163	164	168	177	192	157	175	171	178	158	148	174	142
女性	胃	165	179	202	149	159	137	152	137	137	146	149	134	116	109	130	115	122	111
	肺	8	18	32	52	109	98	107	123	101	137	112	126	118	128	139	129	124	134
	肝	37	33	35	55	89	99	90	88	85	84	103	80	76	90	88	64	57	74
	膵	6	17	24	40	68	89	92	99	128	96	101	92	115	133	121	117	132	127
	乳房	18	16	25	28	38	43	54	65	56	62	63	67	72	78	55	73	87	59
	子宮	93	71	57	40	38	25	21	36	30	30	34	35	29	26	33	38	35	27
	大腸*	30	44	48	85	123	125	150	140	154	153	165	150	160	159	177	173	169	164

死亡率																			
性別	部位	S30	40	50	60	H8	12	17	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R元	2
男性	胃	54.7	79.8	80.0	71.7	71.7	73.7	65.2	66.5	71.4	68.2	65.3	71.4	65.3	63.2	63.5	60.8	54.8	51.6
	肺	4.2	15.5	22.4	44.4	68.1	82.6	102.8	88.2	103.8	90.5	103.9	101.2	109.7	97.0	93.6	101.2	112.5	96.9
	肝	11.8	14.0	17.7	31.8	56.1	57.4	54.1	50.7	45.7	47.2	42.8	47.9	41.4	42.9	37.4	35.5	40.2	41.8
	膵	1.8	5.8	7.1	14.2	22.9	25.4	25.2	33.1	29.5	30.0	34.1	35.8	36.0	41.6	36.2	33.0	34.9	32.7
	大腸*	5.0	10.7	13.1	20.7	41.1	45.0	46.5	49.2	52.2	57.0	47.0	52.7	51.7	54.1	48.5	45.7	54.2	44.7
女性	胃	34.9	41.8	50.4	35.8	39.8	34.7	39.3	36.9	37.1	39.9	41.0	37.2	32.4	30.7	37.0	33.0	35.5	32.6
	肺	1.7	4.2	8.0	12.5	27.3	24.8	27.6	33.1	27.4	37.4	30.9	35.0	32.9	36.1	39.6	37.1	36.0	39.4
	肝	7.8	7.7	8.7	13.2	22.3	25.1	23.3	23.7	23.0	23.0	28.4	22.2	21.2	25.4	25.1	18.4	16.6	21.8
	膵	1.3	4.0	6.0	9.6	17.0	22.5	23.8	26.7	34.7	26.2	27.8	25.6	32.1	37.5	34.5	33.6	38.4	37.4
	乳房	3.8	3.7	6.2	6.7	9.5	10.9	14.0	17.5	15.2	16.9	17.4	18.6	20.1	22.0	15.7	21.0	25.3	17.4
	子宮	19.7	16.6	14.2	9.6	9.5	6.3	5.4	9.7	8.1	8.2	9.4	9.7	8.1	7.3	9.4	10.9	10.2	7.9
	大腸*	6.4	10.3	12.0	20.4	30.8	31.7	38.8	37.7	41.7	41.8	45.5	41.7	44.7	44.8	50.4	49.7	49.1	48.2

注：大腸の悪性新生物は、結腸と直腸S状結腸移行部及び直腸を示す。

ただし、昭和40年は十二指腸と小腸を含み、昭和50年は肛門を含む。

図 7-1 悪性新生物の主な部位別死亡率（人口 10 万対）の年次推移（男性）

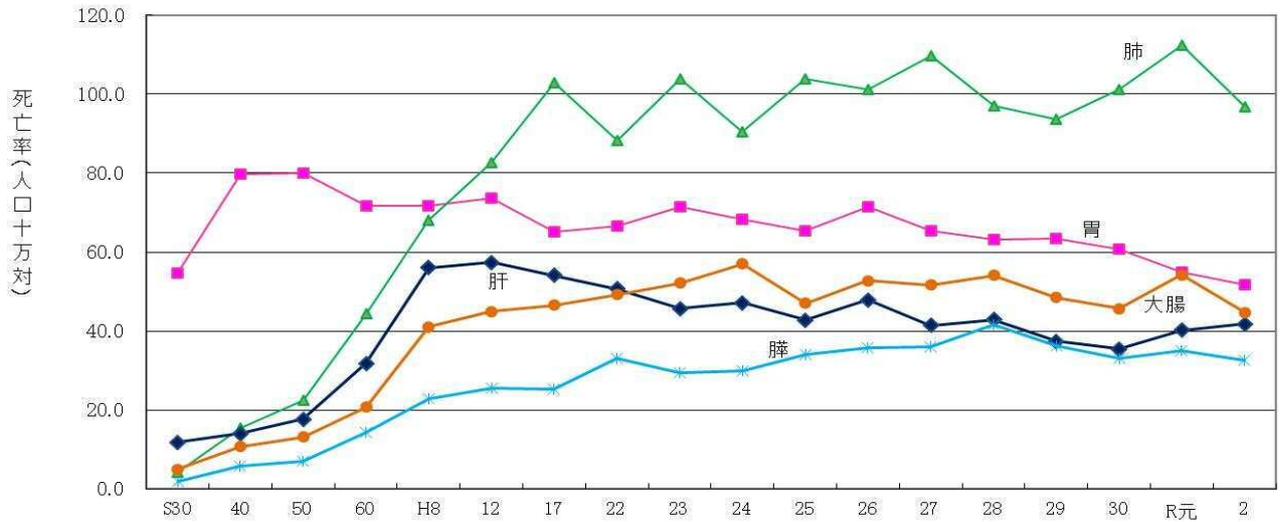


図 7-2 悪性新生物の主な部位別死亡率（人口 10 万対）の年次推移（女性）

